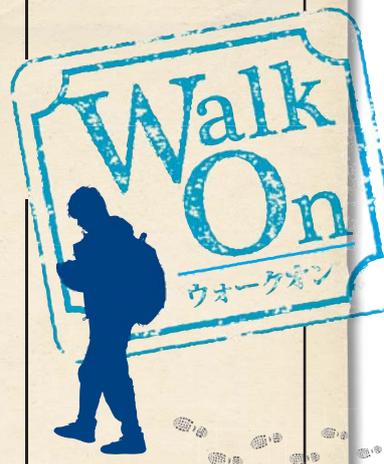




三島神社付近から伊吹山を望む。三島池は農林水産省の「ため池百選」にも選ばれ、秋から冬にかけては多くの渡り鳥が飛来する。



三島池

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 米原市

- 歩行距離▶約1.3km
- 歩行時間▶約25分

水神となった比夜叉御前の機音が響く

「さかさ伊吹（水面に伊吹山が映る姿）」の景勝地として知られる米原市の三島池は、別名「比夜叉池」ともいえる。三島池は中世期に造られた古いため池で、この池の開削にまつわる不思議な伝説が残っている。

その昔、この地の領主であった佐々木秀義の命で池を掘ったところ、水はまったく湧いてこなかった。神に占ってもらくと、一人の女性を生き埋めにすれば水が湧出するといってお告げがあった。しかし領民から名乗り出る女性はおらず、その話を耳にした領主の乳母である比夜叉御前が自ら人柱になることを申し出て、愛用の機織りとともに池底に埋められた。するとたちまち水が湧き出て、池が満

三島池の西岸にある三島神社は、佐々木家の氏神。神門の扉に佐々木家の四つ目結紋がついている。鳥居の横に比夜叉御前の比較的新しい供養塔と石碑があり、伝説とともに古歌「名にも似ず 心やさしきたをやめの 誓も深くみつる池水」が記されている。



三島神社

水となり、その後はいかなる日照りでも水が涸れることはなかった。やがて比夜叉御前は水神と崇められ、今でも深夜になると池から機音が聞こえてくるという。

伝説の水神に守護された現在の三島池は、姉川の伏流水で常に満たされ、四季を通して水鳥が群れ遊ぶ姿を見ることができ。池の周囲は約780m。散策路をのんびり巡れば、雪見灯籠や水鳥の観察小屋があり、隣接する女溜の八つ橋を歩けば水辺の生き物も身近に観察できる。雄大な伊吹山を眺めながら、三島池の豊かな自然をたっぷり満喫しよう。

モデルコース

三島池ビジターセンター前バス停 6分 ▶ 三島神社
 5分、都久夫須麻神社 2分、女溜 7分 ▶ 雪見灯籠
 5分、三島池ビジターセンター前バス停

※三島池ビジターセンターは2014年に撤去されました。
 ※移動時間はあくまでも目安です(休憩時間等含まず)。
 ※JR近江長岡駅から「長浜駅」行きバスで「三島池ビジターセンター前」まで約10分

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！

<http://www.keibun.co.jp>

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分です歩いてみてはいかがでしょうか。

※言い伝えのため表現が異なる場合があります。